

＝矢作ダムの洪水調節機能の強化＝

矢作ダム再生事業

～洪水被害を防止・軽減する治水対策～



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所 矢作ダム管理所

[位置図]



[矢作川流域図]



事業の概要

現在の矢作ダムでは、放流能力が不足しているため平成12年9月洪水（東海（恵南）豪雨）のような大きい規模の洪水に対し、洪水ピーク前にダムの容量が満杯となり洪水ピーク時には十分な洪水調節を行うことができません。

洪水ピーク時にダムの容量が満杯とならないためには、洪水初期にできるだけダムの水位上昇を抑えておく必要があります、そのためには放流能力の増強（放流トンネルの新設を想定）が必要です。

放流施設 増強 イメージ

現 状

既設ゲート（非常時）
6.5m×10.5m×4門

既設ゲート（常用）
4m×4.1m×3門

放流能力の増強後

放流トンネル
を想定

洪水 初期 イメージ

矢作ダム

今あるゲートだけでは
放流能力が小さいため、
すぐに貯まってしまう

矢作ダム

既設ゲート
（常用）

放流能力を増強した
ことにより、従来よりも
水位上昇を抑える
ことができる

放流トンネル
を想定

洪水 ピーク時 イメージ

矢作ダム

ダムの容量が
満杯となり洪水調節が
できなくなる

矢作ダム

ダムの容量が確保され、
洪水調節ができる

放流トンネルのイメージ

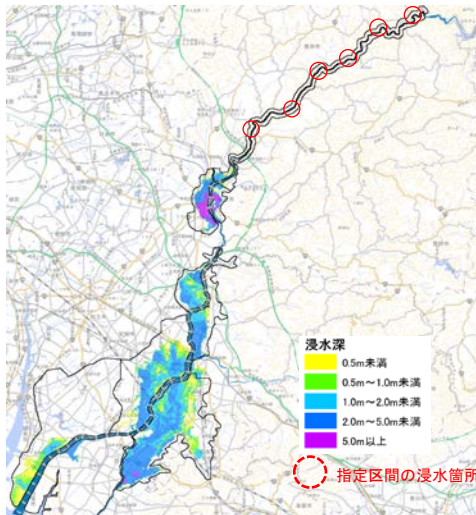
天ヶ瀬ダム
（京都府宇治市）



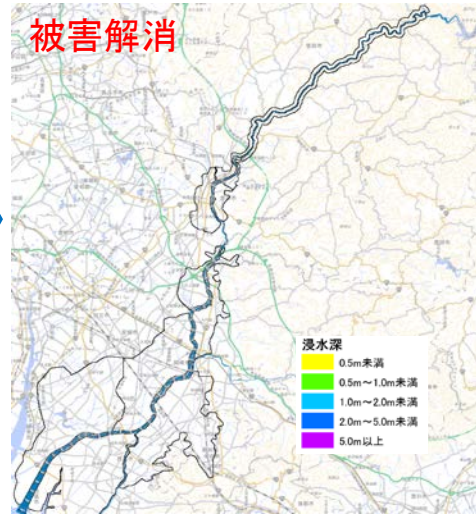
事業の効果

平成12年9月洪水（東海(恵南)豪雨）と同程度の規模の洪水を想定した場合、浸水世帯数55,200世帯、浸水面積7,900haの被害が想定されますが、矢作ダム再生と河川の整備により浸水被害が解消されます。

現況（H27年度末）



矢作ダム再生及び河川整備後



	①現況	②ダム再生・河川整備後	軽減効果 (①－②)
浸水世帯数 (世帯)	55,200	0	55,200
浸水面積 (ha)	7,900	0	7,900

河川整備の進め方

河川の整備（国管理区間及び県管理区間）と矢作ダムの洪水調節機能の増強を、一体的に国と県が調整・連携して実施し、矢作川の安心・安全を確保します。

国管理区間（下流部） 河口～矢作古川分派施設	完 成
国管理区間（中流部） 矢作古川分派施設～明治頭首工	河道掘削、堤防整備等
国管理区間（上流部） 明治頭首工～籠川合流点	河道掘削、堤防整備、鵜の首狭窄部対策等
愛知県管理区間 籠川合流点～矢作ダム	整備 計画 策定 河道掘削、堤防整備等
矢作ダム再生事業	計画・調査 設計・工事